富山県立中央病院
やさしさ・信頼・安心

地域連携室だより

令和5年2月号
No.248

〒930-8550　富山市西長江2-2-78 | TEL　076 (424) 1531 | https://www.tch.pref.toyama.jp/

春寒の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大防止にご協力いただき感謝致します。

今月の掲載は、救命救急センター、小児外科、褥瘡対策チームの紹介です。

診療科の紹介　救命救急センター

救命救急センタースタッフ紹介

後列左より
大鋸医長、表寺 Ns、堀川部長、坂田医長、森医師、一戸研修医、宮本 Ns、田中 Ns

前列左より
藤永研修医、宮越集中治療科医師、松井集中治療科部長、若杉部長、高寺医長、横山 Ns、岩城 Ns、小坂 Ns

最前列
囲 Ns

今回は、当院を基地病院として運用している富山県ドクターヘリの岐阜県との連携についてご紹介申し上げます。

ドクターヘリは現在全国に55機あり、今年度で全ての都道府県に配備されました。富山県ドクターヘリは全国で46機目（都道府県として38番目、北陸でもっとも早い）として、平成27年8月24日より運用が開始され、今年度で7年目を迎えました。基地病院たる当院からは、救命救急センタースタッフ（医師・看護師）のみならず、ICU・ECUなど他ユニットの看護師や救急科以外の専門科医師、研修医などもヘリスタッフとして搭乗しており、まさに

県立中央病院全体でドクヘリ運用を支えていると言えます。令和4年8月末までの累計要請件数は5220件であり、2020年度実績では全国9番目の要請件数を誇り、広く県民の医療ニーズに応えています。そんななか、新型コロナウイルス感染の拡大に伴い全国的な救急医療搬送の落ち込みがみられ、ドクターヘリも例外でなく例年900件近くあった要請が700件弱と2割程度の落ち込みを見せました（図1）。大規模な流行状況、無症状患者の紛れ込みの懸念から、全症例でのfull-PPE対応（帽子、ゴーグル、マスク、ガウン、手袋の装着）、発熱や高流量酸素投与患者でのヘリ対応の困難さ（エアロゾル拡散の懸念）など活動の煩雑さが増しておりますが、新型コロナ流行による医療レベルの低下や患者への不利益を来さぬ様、スタッフ一同日々努力を重ねているところです。

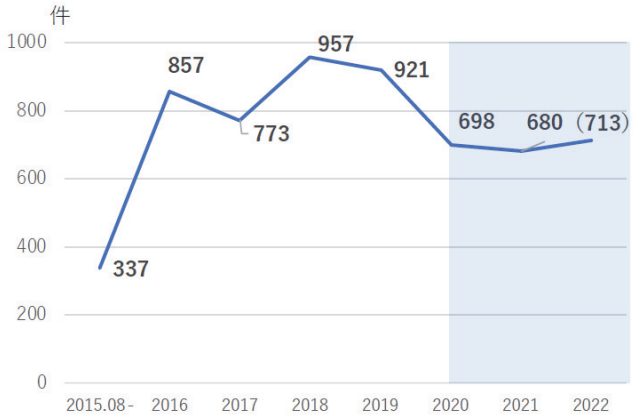


図1
富山県ドクターヘリ要請件数の年次推移
2022 年度は 9 月末までの要請件数から推計

そんななか、富山県ドクターヘリは県内の要請対応のみならず、隣接する岐阜県北部（飛騨高山）地域について「岐阜県と共同運航にかかる協定書」を締結しています。同地域の事案において岐阜県ドクターヘリが飛行不能な場合に、富山県ドクターヘリが要請を受ける体制としており、県境における重症患者発生事案についてより効率的・効果的な活動が為されています。今回、その協定により富山県ドクターヘリが迅速に介入して救命し得た、岐阜県での重症外傷症例の一例をご紹介します。

某月○日。岐阜県飛騨市にて。80代男性、自宅庭でユンボでの作業中にキャタピラと車体の間に身体を挟まれ受傷。救急通報内容から重症外傷が予測され、通報をうけた飛騨市消防通信指令の判断でドクターヘリが必要な事案と判断されました。岐阜県内の事案であり、まず岐阜県ドクターヘリに要請がかかりましたが、岐阜ドクターヘリは別事案対応中にて応需不能であり、富山県ドクターヘリに出動依頼となりました。

要請から5分後には県中を離陸し、17分でランデブーポイントに到着（救急車搬送では当院まで2.5時間程度の距離）。発災現場では救急隊接触時の患者評価でショック状態であり、救急隊により急速補液を実施しつつ患者をランデブーポイントに救急車搬送し、ドクターヘリと救急隊のランデブーポイントへの到着はほぼ同時でした。HR 112 bpm, BP 90/74 mmHg, RR 28 /min, 末梢冷感湿潤あり、GCS E4V4M6、両下肢麻痺を呈し、ポータブルエコー迅速診断（FAST）で肝表面と脾周囲にエコーフリースペースあり。腹腔内出血および受傷様式から骨盤骨折が疑われました。3次救急対応として当院までのUターン搬送（基地病院への患者搬送）を決定。追加で輸液路を確保し、トラネキサム酸静注、痛みの訴え強くフェンタニル投与を実施。現場滞在は19分で、要請から1時間以内に当院に患者を搬入しました。

ヘリ搬送途上で当院救急科医師と情報共有し、大量輸血およびdirect CT（ヘリポートから直接CT室に搬入し造影CTを撮影）、関連オンコール医の召集（同日は当院は非輪番日）と準備をすすめました。ヘリ当院到着後、患者を直接CT室に搬入。体幹部造影CTを実施し、みぎ第9-12肋骨骨折、L1-4横突起骨折、および不安定型骨盤骨折（図2）と診断。会陰部左側に造影後期相で結節状濃染あり静脈性と考えられましたが、幸い動脈性活動性出血はなく、膀胱破裂を認めるものの上腹部臓器損傷は確認されませんでした。バイタル不安定の原因は骨盤骨折に伴う静脈性出血の持続が原因と考えられたため、緊急大量輸血（血液型検査を提出しつつまずはO型RBCで輸血を開始、血液型判明後は適合型製剤に切り替え）を実施しつつIVRによる動脈塞栓術を実施しました（図3　矢印部位の内腸骨動脈で塞栓術を施行）。術後にICU入室し大量

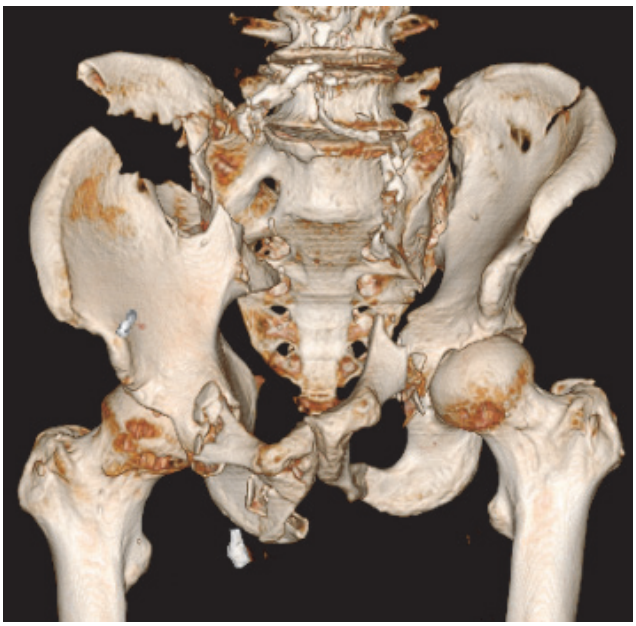


図2

図3

輸血を継続しつつ全身管理を実施し、状態安定化を確認後に計画的に複数診療科での手術（整形外科：骨盤整復術を①前方固定、②後方固定と2期的に施行、②に併せて泌尿器科により膀胱修復術を施行）を行い、受傷15日目に一般病棟へ転棟となりました。

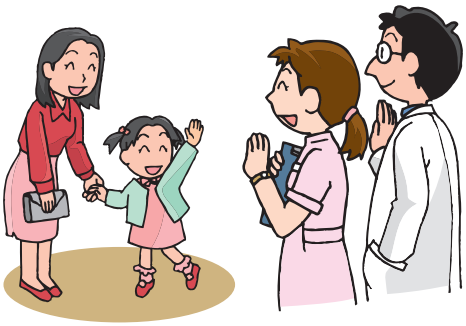
当県ドクターヘリへの要請により発災から治療介入の時間が1時間程度に短縮されたことが本患者の予後に大きく関わったと考えます。今後も、周辺県との連携を深めより効果的・効率的なドクヘリ運用に努めて参る所存です。

（文責：堀川）

小児外科のご案内

専門領域と治療内容の特徴

小児外科は、小児の消化器外科と泌尿生殖器外科を中心に年間250例前後の手術を行っています。特に小児泌尿器科領域は県内で唯一の専門施設であり、胎児診断された水腎症や反復する尿路感染症などの疾患については、富山大学附属病院を始めとして県内の小児科・泌尿器科の先生方より広くご紹介を頂いています。当院の泌尿科医師との連携で、小児の尿路結石の治療にも実績を上げています。また県内唯一の総合周産期母子医療センターの一員として未熟児・新生児の手術を担当しています。



医師紹介

経験豊富なスタッフが万全な体制で治療をサポート

部長

岡田（おかだ）　安弘（やすひろ）

【（患者さんに向けた）一言】
・富山で暮らす子供達を富山の医療で守ります。

【自身の専門性（手技他）アピール】
・小児外科一般、新生児外科、小児泌尿器科

【専門医資格】
日本小児外科学会専門医・指導医、日本外科学会専門医

部長

山崎（やまざき）　徹（とおる）

【（患者さんに向けた）一言】
・わかりやすい説明を心がけます。

【自身の専門性（手技他）アピール】
・小児外科一般、新生児外科、小児泌尿器科

【専門医資格】
日本小児外科学会専門医、日本外科学会専門医

部長

酒井（さかい）　正人（まさと）

【（患者さんに向けた）一言】
・わかりやすく、ていねいな説明を心がけます。

【自身の専門性（手技他）アピール】
・小児外科一般、新生児外科

【専門医資格】
日本小児外科学会専門医、日本外科学会専門医

外来診療担当表

	月	火	水	木	金
1　診	山　崎	岡　田	山　崎	酒　井	岡　田

褥瘡対策チームのご紹介

私たち褥瘡対策チームは、毎週水曜日に医師、看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士など多職種で重度の持ち込み褥瘡や褥瘡ハイリスク患者に対し褥瘡回診を行っています。外用剤や創傷被覆材の選択、ポジショニング、栄養管理、スキンケアなどについてカンファレンスを行い、褥瘡の早期治癒と発生予防を目的として活動しています。

当院に入院される患者さんは、急性期治療が必要な方であり重症度も高く、それに伴い褥瘡の発生リスクも高いです。褥瘡＝寝たきりの患者さんというイメージがありますが、新生児から高齢者まで皮膚の脆弱な方、また長時間の手術を受けられる患者さんや循環動態の悪い患者さんも非常にリスクが高く、幅広い対象の方たちに対し褥瘡対策を行っています。

当院には褥瘡専従看護師が常勤し、各病棟には褥瘡専任医師、褥瘡専任看護師が配置されています。褥瘡専任看護師に対しては、定期的な研修会を開催し、また全職員に対しても年3回の研修会を行い褥瘡ケアに対する知識・技術の向上を図っています。近年、高齢化の進行と共に褥瘡発生や持ち込み褥瘡の件数も増加傾向にあります。褥瘡ハイリスク患者さんや持ち込み褥瘡を保有する患者さんの情報を各部署から褥瘡専従看護師に速やかに報告され、タイムリーにチーム介入が行えるようなシステムとなっています。さらには2021年より、褥瘡のクリニカルパスが運用開始となり、職員の褥瘡予防に対する意識は高まっています。

退院までに褥瘡を治癒させることを目標としていますが、重度褥瘡の場合、病状が急性期を脱しても褥瘡が治癒するまでに長期間要する場合もあります。その場合は、在宅や地域の療養の場でも継続的なケアが必要となります。切れ目のない継続的なケアができるように、褥瘡対策チームから地域へつなげていきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願い致します。

お知らせ

1 連携談話会・症例検討会のご案内

3月開催予定

★第165回 富山県立中央病院消化器キャンサーボード
日 時：令和5年3月2日（木）　17時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

富山県皮膚科病診連携症例検討会（二木会）
日 時：令和5年3月9日（木）19時から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

★中央病院病診連携談話会
日 時：令和5年3月13日（月）19時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

★第76回 歯科口腔外科病診連携症例検討会
日 時：令和5年3月15日（水）　19時から
場 所：富山県立中央病院　中央診療棟3階　35会議室

胸部レントゲンカンファレンス
日 時：令和5年3月16日（木）19時から
場 所：富山県立中央病院中央病棟B 1階会議室

★第121回　漢方症例検討会
日 時：令和5年3月17日（金）19時から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

★糖尿病療養指導のための講習会
日 時：令和5年3月24日（金）17時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール
講 義：「周術期血糖値の実際」
問題演習：「低血糖を予防する服薬指導」
療養指導の実際：「高齢者糖尿病患者への支援」

呼吸器キャンサーボード
日 時：令和5年 3月 7、14、28日(火)　16時30分から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

4月開催予定

★第166回 富山県立中央病院消化器キャンサーボード
日 時：令和5年4月6日（木）　17時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

★中央病院病診連携談話会
日 時：令和5年4月10日（月）　19時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

富山県皮膚科病診連携症例検討会（二木会）
日 時：令和5年4月13日（木）　19時から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

胸部レントゲンカンファレンス
日 時：令和5年4月20日（木）　19時から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

呼吸器キャンサーボード
日 時：令和5年4月 4、11、18、25 日(火)
　　16時30分から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

★…医療機関スタッフの方々の公開学習の場としています。お気軽にご参加ください。

換気、手指消毒、ソーシャルディスタンス確保、
環境整備を徹底して実施いたします。

2 3月の外来診療に関する医師不在日

科名	医師名	不在日
循環器内科	丸山医師	17日(金)
消化器内科	松田（充）医師	2日(木)、16日(木)
リウマチ・和漢診療科	杉下医師	27日(月)、29日(水)～31日(金)
精神科	米澤医師	20日(月)
小児科	五十嵐医師	23日(木)、27日(月)、28日(火)、30日(木)
	藤田医師	14日(火)、28日(火)
外科	前田医師	31日(金)
	吉川(朱)医師	10日(金)、31日(金)
整形外科	丸箸医師	29日(水)
脳神経外科	青木医師	17日(金)
泌尿器科	島(崇)医師	17日(金)
眼科	山田医師	1日(水)～3日(金)、8日(水)、15日(水)～17日(金)、20日(月)、22日(水)～24日(金)、27日(月)～31日(金)
歯科口腔外科	小島歯科医師	13日(月)、20日(月)
	倉部歯科医師	20日(月)
放射線診断科	出町医師	24日(金)
	角谷医師	20日(月)

3 地域連携室からのお知らせ

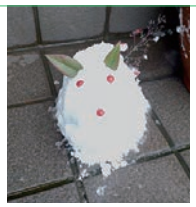
令和5年2月より「とやまPET画像診断センター」のPET/CT装置が新しくなります。

当院は「とやまPET画像診断センター」と連携しながら、がんの診療をしております。新しいPET/CT検査の診断での精度が向上し、患者さんの治療方針に役立てることができますので、是非当院へご紹介いただきますようお願いいたします。

4 受診にあたってのお願い

日頃より、地域連携室業務に多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。時折、予約なく診療情報提供書をお持ちになって来院され、当日の受付枠がいっぱいで、後日の予約を取ってお帰り頂く場合があります。ご面倒でも、受診前に地域連携室にお電話いただき予約をお願いします。その際には診療情報提供書を事前に FAX いただきますと診療までの待ち時間の短縮にもつながりますので、ご理解とご協力を賜りたく存じます。何卒よろしくお願いいたします。

編集後記



立春を迎え、春の気配が感じられるころとされていますが、まだまだ厳しい寒さが続いております。皆様いかがお過ごしでしょうか。

先月は10年に一度といわれる寒波が襲来し、今年も大雪に悩まされる冬となりました。2月は積雪が少ないことを祈っております。

さて、2月はバレンタインデーの特設会場が設けられ、チョコレート好きな私にとっては心躍る季節となりました。今年も様々なチョコレートを買って、自宅でゆっくり楽しみたいと思います。

寒さが続きますが、皆様のご健康を心よりお祈りいたします。今度とも何卒よろしくお願いいたします。　（地域連携室保健師　鹿島桃子）

「地域連携室だより」の送付を希望されない場合は
下記までご連絡下さい。

富山県立中央病院
地域連携室
○代表電話　076（424）1531／内線3177
○予約専用　076（491）7160
○FAX　076（491）7109

がん診療に関する相談支援センター
ホームページアドレス　https://www.tch.pref.toyama.jp/
地域連携室（医療機関向け）電話076－424－1531／内線3177
メールアドレス　chiikirenkei@pref.toyama.lg.jp
医療相談室（患者・ご家族向け）電話076－424－1531／内線9130・9307
メールアドレス　kango@pref.toyama.lg.jp